



Monthly Report

- I. キャンプアカデミー「グリーンケアとキャンプの接点」(東京・神戸・仙台)
- II. 2012年度第3回理事会および第2回総会等の実施について
- III. 運営委員ミーティングの実施について
- IV. 2013年度地域事業支援プログラムについて
- V. Asia Oceania Camping Congress in Sydney
 - ・ 都道府県キャンプ協会事務局担当者のみなさまへ
 - ・ NCAJ CALENDAR
 - ・ TOPICS

「評価」というのは、とてつもなく難しいものです。もちろん、仕事でも、プライベートでも何らかの取捨選択は行っているわけですから、評価は必然と言えるでしょう。「AとBのボールペンを評価して、どちらかを購入せよ」といった評価なら、どちらに転んだところでたいした問題ではありません。しかし、評価の対象が人となると、やはり慎重にならざるを得ないものです。

こんなことを考え始めたのは、ある自治体が公立の小中高校で試験的に実施している、学生や保護者へのアンケートによる教員の評価について取り上げたテレビ番組を見たからです。本格実施の際には、その評価がボーナス査定につながり、最低評価が続くと免職になることもあるのだそうです。

確かに子どもを巡るさまざまな問題が指摘される中、「学校を変えなければならない」という大きな圧力があることは理解します。実際に変えるべき点もいくつかはあるのでしょう。そこで、改善にはまず教員の質を上げなければならないということなのだと思いますが、このような方法では、一部の評価の低い教員を免職に追い込むことはできても、全体の質を上げることは難しいような気がします。

その番組では、学生からの評価を活用して教員の指導技術の向上につなげる丁寧な取り組みを行っている他県の学校も紹介されていました。しかし、そこでの「評価」は、ずいぶんと質の異なるものでした。アンケートをしっかりと読み込み、それに応じて先輩教員が新人教員にノウハウを伝えます。これは非常に手間のかかる作業で、なかなか一般化は難しそうです。そもそも、この番組で取り上げられていた自治体では、教育に限らず、「市場化が質の向上に効果的である」という方針の下でさまざまな行政サービスの再編が進められていますから、おそらくそういった手間と時間のかかる取り組みは意図されていないのだと思います。

ここに評価の難しさがあります。評価が相対的な優劣を決める単なる「ふるい」であれば、容易に弱肉強食の世界が生じます。そこでは評価の低い人をすくい上げようという力は働かず、つぶせそうな人を蹴落とすということになりがちです。「それくらいの危機感がなければ成長はあり得ない」という声が聞こえてきそうですが、危機感が筆頭のモチベーションという状況でできる成長って何なんでしょう？少なくとも初等・中等教育の現場で大切にされてほしい「成長」とは違うような気がします。

もう一つ引っかかりを感じるのは、教員の処遇にさえ影響を与うるアンケートを行うことで、子どもたちを「学校のお客様」にしてしまわないかということです。お客様であることが一概にダメとは言えませんが、学びの効果という点に絞って考えれば、子どもたちは学校で「お客様」でなく「学生」を演じているときに、いちばん効果的に学ぶことができるのではないかと思います。「学校のお客様」になったとき、学びのポテンシャルはすたとんと落ちてしまう気がしてなりません。たとえば、キャンプで楽しさが重要な要素とされるのは、人は「楽しむ人」「上機嫌な人」であるときに学びのポテンシャルが高まるからだだと思います。そういった場面に応じた役割や立場(のようなもの)を闇雲に壊したところで、たいしていいことは起こらないように思うのですが…、さて。

話が少々横道に逸れましたが、とにかく人の評価というのは難しいものです。それでもやはり評価をしなければならない場面は巡ってくるわけで、評価を「排除のふるい」にしないよう気をつけなければと肝に銘じるのです。

事務局長 金山竜也



I. キャンプアカデミー「グリーフケアとキャンプの接点」(東京・神戸・仙台)

BUC 対象事業



東日本大震災からまもなく2年が過ぎようとしています。地震発生直後から始まったグリーフキャンプ・プロジェクトでは、これまでに台湾と朝霧で2度のキャンプを行い、現在、3度目のキャンプの準備を進めています。また、グリーフキャンプの先行事例である El Tesoro de la Vida について学ぶために2度渡米しました。それらから得た学びをふまえて、グリーフケアとキャンプの接点について考えるキャンプアカデミーを実施します。

事例を交えて、グリーフキャンプとは何かを紹介するとともに、グリーフケアのためのサポートプログラムを体験し、グリーフとはどのような状態なのか、支援者として何を知っておかなければならないのかといったことを考えます。他のキャンプを行ったり、さまざまな喪失体験をした方々の支援を行ったりする際にも役立つヒントがたくさんあります。ぜひご参加下さい。

開催要項はこちら www.camping.or.jp/201302NCAJBUC.pdf

申込みはWEB フォームをご利用下さい <http://goo.gl/TXHhG> (大文字と小文字を区別)

	日程		会場
東京	2月 9日(土)	12:30～16:00	日本YMCA 同盟 (東京都新宿区)
神戸	2月 11日(月・祝)	12:30～16:00	神戸YMCA 三宮会館 (神戸市中央区)
仙台	2月 23日(土)	14:30～17:30	子どもグリーフサポートステーション (仙台市青葉区)

II. 2012年度第3回理事会および第2回総会・第2回都道府県キャンプ協会指導者研修会について

理事会、総会、都道府県キャンプ協会指導者研修会(事務局担当者会)について、以下の日程で実施します。それぞれ該当する方に案内をお送りいたしますので、ご確認のうえ、必要事項を記入して事務局まで出欠等のご回答をお送りください。

日 程	名 称	該当する方
3月 9日(土)14:00～16:00	第3回理事会	理事・監事
3月 23日(土)14:30～17:00	第2回総会	正会員
3月 24日(日) 9:00～12:30	第2回都道府県キャンプ協会指導者研修会	県キャンプ協会事務局担当者

III. 運営委員ミーティングの実施について

4月1日の公益法人への移行より、昨年度策定した中期総合計画に基づき組織運営の改善に努めて参りましたが、いまだその途上にあり、今年度は必ずしも活発に事業が進められたとは言えない状況がありました。依然として厳しい状況は続きますが、来年度は徐々に事業を回復させ、2016年度の協会創立50周年に向けた動きもスタートさせたいと考えています。

そこで、運営委員のみなさんにお集まりいただき、日本キャンプ協会の現況や2013年度の事業計画案などについて説明し、よりよい事業運営を目指した意見交換を行う、運営委員ミーティングを計画しました。運営委員のみなさまには案内をお送りいたしますので、ご出席いただきますようよろしくお願いいたします。

日 程 : 3月8日(金) 14:00～17:00

会 場 : 国立オリンピック記念青少年総合センター

Ⅳ. 2013 年度地域事業支援プログラムについて

都道府県キャンプ協会及びブロックを対象に 10 月から 12 月にかけて募集を行った「地域事業支援プログラム」について、1 月 22 日の常務会(代表理事及び業務執行理事による会議)で検討を行い、以下のとおり事業支援を行うことを決定しました。それぞれの応募担当者へは、今後の手続き等を含む詳しいお知らせを近日中にお送りいたします。

これらの事業を通じて、県域を越えた会員間の交流や研修機会の増加、キャンプ協会による公益性の高い事業の実施といったことが推進されることが期待されます。

団体名	事業概要	予定額
北海道・東北ブロック	スキルアップ研修 (特別認定によるディレクター取得者を主な対象とした研修会)	20 万円
福島県キャンプ協会	親子を対象とした「災害対応キャンプ」 (何事にもへこたれない子どもの育成を目的としたキャンプ)	10 万円
愛知キャンプ協会 (中部・北陸ブロック)	ユニバーサルキャンプフェスタ～美浜の海と緑に親しむ 1 日～ (事前研修とブロック各県によるアクティビティ提供を含む)	20 万円
滋賀県キャンプ協会	キャンプ活動の力～そのとき！あなたにできること～ (県内関連団体の協力の下で実施する防災デイキャンプ)	10 万円
近畿ブロック	関西野外活動ミーティング 2014 (研究者と実践者の交流及び若手指導者の研修機会となる広域事業)	20 万円
広島県キャンプ協会 (中国・四国ブロック)	アウトドアセミナー (多くの団体の共通課題である若手育成を目的としたシリーズ研修会)	20 万円
九州・沖縄ブロック	第 2 回九州キャンプ大会 (ブロック内の連携強化を目的としたつどいと一般向けデイキャンプ)	20 万円

なお、本事業は第 1 期として 2015 年度まで継続実施します。2014 年度分の募集については 2013 年 5 月の都道府県キャンプ協会指導者研修会で、応募方法等の説明を行う予定です。

Ⅴ. 2013 年・秋 アジア・オセアニア・キャンプ会議 in シドニー

2013 年 10 月 18 日(金)～21 日(月)の日程で、第 5 回アジア・オセアニア・キャンプ会議がオーストラリア・シドニーで行われます。さらに会議の前後には、チームビルディングのワークショップやトレッキングツアーなどのプログラムも設けられる予定です。(これらのプログラムに参加する場合は、各自でお申し込みいただく必要があります。)また、日本キャンプ協会では 1 週間程度の参加ツアーを計画中です。

プレゼンテーションの受付は既に始まっていますので、ただ参加するだけでなく発表にもぜひ挑戦してみてください。春真っ盛りのシドニーで、世界中のキャンプ関係者との交流を楽しみましょう。

- ☐ 日程：2013 年 10 月 18 日(金)～21 日(月) ※会議の日程
- ☐ 会場：Novotel Hotel Sydney Olympic Park (オーストラリア・シドニー)
- ☐ 運営：Australian Camps Association・Outdoor Recreation Industry Council
- ☐ WEB：<http://www.aocc2013.org.au/> ※発表希望の方は「CALL FOR PRESENTERS」をご覧ください。

大会参加ツアーのご案内は 4 月ごろの予定です。

BUC や各種研修等は日本キャンプ協会 WEB サイト内「イベントカレンダー」でもご紹介しています。



各都道府県キャンプ協会事務局担当者のみなさまへ

復興特別所得税の導入に伴い、講師謝金等支払い時の源泉徴収税額が変更になりました

2013年1月より「復興特別所得税」が導入されました。これに伴い講師に支払う謝金などから源泉徴収される所得税率が従来の10%から10.21%になりました(旧所得税率の2.1%分が特別復興所得税として加算される)。講師謝金等を支払う際は、新しい税率を適用するようご注意ください。

《謝金等の所得税率の変更》 10%→10.21%

例：	謝金	¥5,000
	源泉所得税	¥ 510.5 (小数点以下は切捨て)
	差引支払額	¥4,490

NCAJ CALENDAR

これまで

1/14	第1回組織整備委員会	@国立青少年センター
1/17	CONE 安全委員会	@国立青少年センター
1/18	メールマガジン CAMPING News vol.61 発行	
1/22	第8回常務会	@国立青少年センター
1/23	出会いと体験の森へ第3期第1回実行委員会	@東京 YWCA 会館

これから

2/8	メールマガジン CAMPING News vol.62 発行	
2/9	キャンプアカデミー「グリーンケアとキャンプの接点」(東京)	@日本 YMCA 同盟
2/9-11	キャンプディレクター2級 PD 養成講習会	@吉野宮滝野外学校
2/11	キャンプアカデミー「グリーンケアとキャンプの接点」(神戸)	@神戸 YMCA 三宮会館
2/12-15	アメリカキャンプ協会年次大会	@テキサス州ダラス
2/16-17	キャンプディレクター2級 MD 養成講習会	@国立青少年センター
2/18	CAMPING 編集委員会	@国立青少年センター
2/19	CONE 安全委員会	@国立青少年センター
2/21	第9回常務会	@国立青少年センター
2/23	キャンプアカデミー「グリーンケアとキャンプの接点」(仙台)	@子どもグリーンサポートステーション

TOPICS

とことん NPO サポートプロジェクト (東京都内に拠点がある団体対象)

東京都は都内で活動する非営利組織の基盤整備・強化を目的として、「研修」「個別相談」「専門家派遣」を組み合わせた NPO サポート事業を行っています。組織強化や広報、ファンドレイジングなどの講座を無料で受講できるほか、それらのテーマの専門家派遣(最大12時間分)を受けることができます。すでに講座は始まっていますが、2月にも多くの講座がありますので、対象となる団体は利用してみたいでしょうか。

- 対象者 東京都内に事務所・活動拠点を置く「特定非営利活動法人」「公益法人」「ボランティア団体」などの民間非営利組織で活動している方(理事、事務局長、スタッフ、ボランティアなど)
- テーマ 「寄付・ファンドレイジング」「広報」「組織の強化・信頼性向上」
- 申込み <http://tokoton.npo-sc.org>

問い合わせ先：NPO サポートセンター Tel. 03-3547-3206 メール：tokoton@npo-sc.org



公益社団法人日本キャンプ協会 Monthly Report vol.10 2013/1/25
発行者：公益社団法人日本キャンプ協会 事務局長 金山竜也
お問い合わせ・電話：03-3469-0217 e-mail: ncaj@camping.or.jp



Monthly Report vol.11 は2月25日(月)ころの発行を予定しています。